# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

私は、大学で学んできた地域創生についての研究をアメリカで進めると共に、自分の語学力を生かし、その能力を使って地域貢献するために、１年間アメリカで留学をした。また、私はアメリカで地域のイベントがどのように開催され、そこからどのようにしてコミュニティが構築されていくのか興味があった。留学先のアイオワ州では、フードイベントやファーマーズマーケットが都心で毎週行われており、大変にぎやかだった。また、それにより、アイオワ州は山梨よりもコミュニティが密に作られているようにも感じた。この報告書では、それらのイベントに参加し、感じたことと、山梨で取り入れられそうな点、そしてデモインエリアコミュニティカレッジでの学校生活などを述べ、自分の留学生活を振り返る。それにより、山梨のまちづくりを今後どうしていくべきか、また後代の留学生をどうサポートできるかについて考える。

私は、８月から１年間留学を始めたのだが、住む予定だったドミトリーが９月からでないと住むことが出来なかったので、最初の１か月はボランティアの方の家でお世話になった。留学先に寮がない場合、居住地を見つけることが困難であるため、今後の留学生にはその点のサポートが必要だと思われる。９月になってからはデモインエリアコミュニティカレッジにて授業が始まり、私はEnglish Second Learning（以降はESLと言う）というクラスを２つ履修し、それぞれリーディングとライティングについて学んだ。ESLのクラスは、担当教師がネイティブでない方を選択することを勧める。ネイティブのESLの教師も分かりやすくはあったが、やはり第二言語として学んできた教師のほうが、英語を学ぶにあたっての壁を理解しているので、さらに分かりやすく教えてくれた。私は、クラス以外にアメリカ文学について研究をするクラブにも参加をした。学校にもよると思うが、友達作りやその国の文化について知るために、クラブに１つ参加することを勧める。春からは、文学についてのクラスを履修した。評価方法は、レポートが主だったため、留学生である私は他の生徒よりも念入りにレポートについて推敲を重ねる必要があった。学校には、留学生用のESLサポートがあるため、それを活用して文法や内容について推敲をしてもらった。アメリカは、移民が多いこともあって留学生をサポートするシステムが多くあり、全て無料であるため、進んで活用していくべきだと思われる。また、私は１年を通して、インターナショナルクラブにも参加をした。インターナショナルクラブでは、多国籍の留学生が参加をしており、学校でフェスティバルを開催したり、旅行に出かけたりと、様々なイベントを行った。アメリカ以外の文化や人柄について知ることができる良い機会だったため、留学生は積極的に参加をすべきだと思う。

次に、語学力について述べる。留学生活において、もっとも大変だったことは、他の留学生が話す英語の聞き取りと、ネイティブが使うスラングの理解である。日本人にも、日本訛りの英語があるように、他国にもそれぞれの訛りがある。私が特に聞き取りづらかったのは、ベトナムとブラジルの英語である。例えば、have という単語は、日本人はハブと発音するが、ベトナム人はハフと発音する。同じ単語でも、発音が微妙に異なるのである。留学当初、短い文章ならば聞き取ることは出来たが、複雑なテーマになってくると全く聞き取れず、コミュニケーションをとることに大変苦労した。これをどのように解決したかというと、私の場合、ルームメートがベトナム人であったため、なるべく会話することを心掛けた。その結果、彼女はアメリカでの一番の友人となり、ベトナム人の話す英語も以前よりは聞き取れるようになった。リスニングにおいて、やはり最も大切なポイントは反復練習だと改めて感じた。帰国後は、留学中よりも英語を聞く機会がどうしても減ってしまうので、意識してリスニングを継続していくようにしたい。次に、ネイティブの使うスラングについて、どう対処したかを述べる。留学前にも、スラングについては多少は知ってはいたが、やはり現地に行くとその量は比ではなく、会話に追いつけないことも多々あった。私はこの問題を、アメリカのアニメやバラエティー番組を見ることで解決した。

（別紙様式４―Ｂ）

# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

ベトナム人の友人と

次に、アメリカでのコミュニティについて述べる。私がお世話になったホストファミリーの方は、クリスチャンであったため、時々教会に連れていってもらう機会があった。

お世話になったホストマザーと

また、友人にも何人かクリスチャンがおり、彼らは私を家に招待してくれたり、パーティーに誘ってくれた。アイオワ州で、コミュニティの繋がりが強いと感じたのは、宗教の信仰が強く日本よりも一般的であるという点だ。彼らはクリスチャンであるというアイデンティティを平等に持っているため、それにより頻繁に集まって会話を楽しむのである。日本でクリスチャンと聞くと、聖書を読んだり教会に行って祈りを捧げるというイメージがあるが、アメリカでは何もそれだけではない。クリスマスやイースターなど、年行事で集まってアメリカの祭事を皆で楽しんでいた。クリスチャンの集まりには、若者も高齢者も来るので、幅広くコミュニケーションをとれる点がとても良いと思った。これは、地域のコミュニティの構築につながると同時に、高齢化対策にもなると思われる。若者が高齢者の生活の実態を知ることで、高齢化に関心を持つようになり、サポートをするよう心掛けるからだ。私は、このクリスチャンのコミュニティに参加をしたことで、日本ではまだまだ若者と高齢者のコミュニケーションが足りていないと感じた。

（別紙様式４―Ｂ）

# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

最後に、アイオワ州で参加したイベントについて述べる。先述したファーマーズマーケットやフェスティバルに参加をした私は、そこでいくつかのことを学んだ。それは、市民主体のイベントが重要だということと、参加者に伝統あるイベントとして認識してもらうことである。特に印象に残ったイベントは、ファーマーズマーケットとアジアンフェスティバルだが、ここでは後者のイベントについて述べていきたいと思う。私はこのイベントに、店舗側として参加をした。

このアジアンフェスティバルは、日本人以外にも韓国人やベトナム人など、様々な国籍の方が参加をしており、大変賑わっていた。私は、このイベントに、参加者の大きな熱意を感じた。どの店舗からも「自分たちの国の料理や文化を知って貰おう」という気概が感じられた。そのため、このイベントは大成功をおさめていた。私は、この市民が主体となって行う点を、山梨にもぜひ実施してもらいたいと考えている。このアジアンフェスティバルは、店側が継続したいと思っているため、既に何回も開催されているイベントである。そのため、顧客側にもイベントの信頼や親しみが根付き、安定した顧客数を得ることができている。山梨でも、すでに多くのイベントが開かれているが、山梨県民が誇りに思っている地域資源をアピールするイベントをさらに多く開催していくことが重要だと考えた。また、地域に根差したイベント内容であることで、山梨のコミュニティの構築にも良い影響を与えることができると思う。

私は、この留学生活において多くのことを学ぶことができた。これらの経験をいかし、地域の中心市街地活性化や留学生のサポートに協力していきたい。